

平成31年度学校自己評価システムシート (県立熊谷商業高等学校)

目指す学校像	学力向上と礼節教育を実践し、社会貢献できる専門教養を育成する学校
--------	----------------------------------

重点目標	1 積極的な情報発信に努め、意欲と適性のある生徒を確保することに組織的に取り組む。 2 生徒のコミュニケーション能力、問題解決能力、情報活用能力などの育成とともに基礎学力・資格取得の向上に取り組む。 3 基本的な生活習慣の確立とマナー・ルールの遵守の規律ある学校生活の推進に取り組む。 4 生徒の希望する進路実現に向けて、組織的・体系的な進路指導の充実に取り組む。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	3名
	生徒	0名
	事務局(教職員)	6名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価 (3 月 1 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策
1	北部地域の中学生数が減少している影響もあり、平成31年度の生徒募集において、募集定員が確保できなかった。 校内外での学校説明会やホームページ等で、本校の魅力をさらに情報発信する必要がある。	積極的な情報発信と志願者数の確保	①予定されている5回の学校説明会等で、魅力や特色をアピールする。 ②中学校や外部団体主催の説明会にも積極的に参加する。 ③中学校訪問を実施する。 ④上級学校訪問等を活用し、早期から本校について理解させる。 ⑤ホームページから商業高校の利点や特長、日々の教育活動等について情報発信を継続して行う。	①本校への入学希望者が昨年度を上回ったか。 ②外部での説明会への参加ができたか。 ③情報交換ができたか。 ④中学1・2年生への説明会数はどれくらいか。 ⑤ホームページのアクセス件数が増加したか。	校内外の説明会でPRを行ったが志願倍率は0.98倍である。 ①入学希望者は195名であった。 ②中学の説明に13回、進学フェア等に3日参加した。 ③2回の訪問を実施した。 ④上級訪問は11校受け入れた。 ⑤9月にHPのバージョンアップがあり更新された。	B 学科の変更、制服の変更により中学生に与えた影響は大きかった。新学科である「総合ビジネス科」の内容を分かりやすく説明し理解してもらうことが課題である。
2	多くの生徒が積極的に資格取得に挑戦している。また、朝学習にも取り組んでいる。 生徒に自信を持たせ、家庭学習の習慣化と学習意欲を向上させる必要がある。	多くの資格取得の実現	①習熟度別授業を行い、生徒の理解度を深めさせる。 ②工夫した朝学習を継続して行う。 ③資格取得に向けた補習を実施する。 ④高度資格取得者向けの特別講座を実施する。 ⑤授業公開を実施する。	①生徒が達成感を得られる授業が展開できたか。 ②時期に応じた朝学習ができたか。 ③検定合格者数が目標を上回ったか。 ④高度資格取得に挑戦し合格できたか。 ⑤授業公開を実施したか。	全商検定表彰9名、県専門資格等取得表彰212名が表彰を受けた。 ①生徒アンケートで75%以上が積極的に授業を受けている。 ②時期に応じて課題を変えたが遅刻する生徒もいた。 ③計画的に補習を実施した。 ④国家資格等に合格した。 ⑤研究授業を実施した。	B 90%近くの生徒が授業の雰囲気は落ち着いていると答えている。特別講座や時間外学習も利用して、資格取得に向けた意識を高め、学習意欲を向上させる必要がある。
3	生徒は地域からの評判もよく、生活態度がきちんとしている。 生徒の基本的な生活習慣の確立とルール・マナーの遵守に、継続して取り組まなければならない。	豊かな心を持った誠実な人材の育成	①交通安全指導等の一環として、計画的に登校指導を実施する。 ②携帯電話等の利用について、ルール・マナー教育を行う。 ③生徒の健全育成のため、部活動をさらに活性化させる。 ④自治会と協力し、地域に根ざした学校を推進する。	①登校指導及び生徒参加型登校指導が実施できたか。 ②ネットトラブル防止等に向けた指導ができたか。 ③部活動加入率はどうか。 ④自治会行事や学校行事等で協力し合えたか。	97%の生徒が思いやりを持って生活していると回答している。 ①定期的に計10週間指導した。 ②機会あるごとに注意を促すとともに講演会も実施した。 ③生徒約80%が所属している。 ④台風上陸時に記念館を避難所として開設した。	A 素直な生徒が多く、生活態度等はしっかりしている。 SNSに関する安心、安全な使い方について繰り返し指導しなければならない。
4	進路状況は、就職・進学とも目標を達成している。進路決定率は100%である。 進学にも重点をおいた進路指導と進路意識向上のため、工夫したガイダンス等の実施が課題である。	生徒一人一人の希望に合った進路実現	①3年間を通じたキャリア教育を実施する。 ②保護者参加型の進路ガイダンスを実施し進路意識を向上させる。 ③企業訪問を計画的に実施する。 ④上級学校への進学者を増加させる。 ⑤PTA・後援会等の協力を受け、面接練習を実施する。	①各学年で計画どおりのキャリア教育ができたか。 ②保護者参加型のガイダンスを実施したか。 ③企業訪問ができたか。 ④生徒アンケートの進路に対する満足度はどうか。 ⑤面接練習が実施できたか	進路状況は進学者57%、就職者43%で進路を決定している。 ①進路指導部を中心に実施した。 ②3年生で保護者参加型のガイダンスを実施し意識を高揚させた。 ③訪問し、求人数が増加した。 ④進学者は11名増加した。 ⑤商工会の協力も得て40名の方にお願いで4日間実施した。	A 生徒の希望により進学と就職の数に変動があるが、進学者の方が若干多い傾向にある。卒業後の進路に満足する進路指導を継続することが重要である。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和2年 3月13日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
熊商の特色や魅力をストレートに伝えてほしい。周りから聞く熊商と自分自身が説明会等で見てくる熊商にギャップを感じる場所があるらしい。 中学生が興味・関心を持ち「楽しそう」と思わせるPR戦略が必要である。熊商に行けば、これが身につく、これができるといった強みを考えてもらいたい。熊商に行きたいという中学生を増やしてほしい。	
基礎的な知識を身に付けたり、覚えることも重要だが、物事をどう考えるかが大切である。コミュニケーション能力も必要である。 昨年度との比較や進化度がわかりづらい。目標を明確にして、継続する仕組みを構築する必要がある。生徒を伸ばすため、組織として積み上げをしっかりと引き継いでほしい。	
スマートフォンに関わる事件や事故が社会的に多く発生している。校内でのルールは整備されているが、SNS等の利用については機会あるごとに繰り返し指導する必要がある。 ネット上のルールやマナーに関する教育もネットトラブル防止に重要であると考えている。	
多様化する進路希望に対応し、生徒や保護者のニーズに合った進路指導を今後もお願いしたい。また、引き続き、計画的に就職や進学のガイダンス等を実施し生徒の進路意識向上に努めてもらいたい。 進路状況は、進学・就職ともほぼ目標を達成している。継続して生徒の進路希望の実現に向け努力してほしい。	